

## 2021年度（令和3年度）幼稚園評価自己評価表

最終更新日	2021年（令和3年）4月1日
-------	-----------------

園番 27	福山市立 緑丘 幼稚園
-------	-------------

### 1 幼稚園教育目標

心豊かにともに伸びる“たくましい子ども”の育成
-------------------------

### 2 目指す自園の幼稚園像（ビジョン）

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①一人一人が自信をもって自己表現ができる子を育てる幼稚園</li> <li>②直接体験を大切にした感動ある保育実践ができる幼稚園</li> <li>③保護者や地域の人々との繋がりを大切にする幼稚園</li> </ul> |
|--|

### 3 目指す幼児像

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①やさしい子（友達の気持ちを受け止められる子）</li> <li>②考える子（自分の思いを伝え、友達と一緒に考えられる子）</li> <li>③粘り強い子（自己肯定感をもち、目標をもって取り組める子）</li> </ul> |
|--|

### 4 自園の現状分析（地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など）

<p>本園のある地域は、人口の流出入が多く、市中心部から離れた東部にあるにもかかわらず商業施設や住宅が増えた地域である。近年働く保護者が増加し、年々園児数は激減する一方で、学区外から車で登園者数の割合は増えている。そのため、子ども同士、保護者同士のつながりが希薄になっている。また、コロナ禍の中で社会状況が一変し、子どもの遊びや文化も大きく変容し、室内遊びが増えている。中でもゲーム・動画等 ICT 機器を使って夢中になって遊んでいる子が増加している。</p> <p>保護者の価値観も多様化し、保護者が子離れできにくく、子どもに気を遣いながら接し、基本的な生活習慣の大切さや自立に向けたしつけについて保護者自身がどうかかわって良いか悩んでいる保護者がいる一方で、周りの人とあまり交わろうとせず、自分流の子育てをする保護者も増えている。</p> <p>子ども達は、好きな遊びを見つけて楽しんでいるが、人と関わる経験が乏しく、また経験不足から不安感が強く、間違いや失敗を恐れ、自分の思いや困り感を素直に表現することが苦手な子どもも多い。</p> <p>このような実態から、一人一人が安心して園生活を楽しみ、集団の一員として自信をもって行動し、友達と力を合わせることの大切さや素晴らしさ、達成感や満足感を感じ取ることができるよう、人との関わりや自然とのふれあいなどの豊かな感動体験活動を通して、教育目標に迫っていきたい。</p>
---

### 5 今年度の重点目標と設定理由（ビジョン実現のために）

重点目標	設定理由
一人一人が自己表現し、自信をもって活動する幼児 ～ 表現意欲を高める援助や環境を通して ～	5つの力や10の姿、子どもの実態をもとに育成したい資質・能力を明確にし、視点を焦点化し、子ども達が安心して自己表現し、自信をもって活動するための援助や環境構成のあり方について研究をしてきた。子どもの声を察知し、子ども達の思いが実現できるよう環境構成を工夫する中で、子ども達は人・もの・ことに積極的に関わり、主体的に活動する姿が見られるようになってきた。本年度も子どもの姿をしっかり読み取り、一人一人に応じた評価をし、失敗をプラスに受け止め、子どもを信じて、発達を促すような援助や環境構成を大切にしていく。受容され、適切な評価を受けた子どもは、自己肯定感を高め、積極的に自己表現し、自信をつけると考え、設定した。

※【評価】 Aー達成した Bーほぼ達成した Cーじゅうぶん達成していない Dー達成していない

	3年間の目標	1年間の目標	具体的な方策	評価	評価結果	
					○=反省や課題	◎=改善のための方策
生きる力の育成	安心して自分の思いを表現できる力をつける	身近な人に自分から関わる場や機会をつくる	・「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」「〇〇できないから手伝って」等時と場に応じて言えた時は褒める			
			・制作活動等において、活動途中や終了後に鑑賞タイムを設け、互いに認め合う場をつくる			
	身の周りの環境に自分から進んで関わる力をつける	学びが次の遊びの学びへとつながるよう、発達段階や実態に応じてマネジメントする	・振り返りの場を大切にし、子どもの声に耳を傾け、困ったことややりたいこと等思いを読み取る			
教師の役割	心を揺さぶる遊びの創造や環境の工夫をする	専門性を高める研修を行い、実践を進める	・援助・環境構成のあり方について、視点をもとにレポートを作成し、職員間で意見交流する（月案1回、造形2か月に1回）			
	個々の実態に応じた指導・援助・環境を工夫する	個々の成長発達を理解し、職員で共通理解する	・個・集団の変容と援助について個別指導経過の交流・検討を実施する ・関係機関や相談機関と丁寧に連携する			
信頼される幼稚園	幼稚園教育の理解を広める	アンケートで「子どもの成長や子育ての喜びを実感できた」と肯定的評価する保護者を95%以上にする	・保護者に面談・手紙・便り等で子どもの様子や育ちを知らせる ・園長だより・園だより・クラスだよりをそれぞれの役割・ニーズを踏まえて発行する			
	子育てについて気軽に相談できる幼稚園にする	「悩みを気軽に相談できる」と肯定的評価する保護者を90%以上にする	・ささいなことでも職員から保護者に声かけをし、信頼関係を築き、子育てについて共に考える機会をもつ			